

城南家保ニュース Vol.27-7

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

E-mail jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojoun>



高病原性鳥インフルエンザ特別対策期間が始まります

本県では、本格的な渡り鳥の飛来が始まる11月1日から翌年4月30日までを「高病原性鳥インフルエンザ特別対策期間」と定め、関係者の皆様に一層の警戒を呼びかけています。昨シーズンは4月の熊本県での事例を含め、国内で6例の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生がありました。今シーズンは現在のところ国内での発生はありませんが、台湾や韓国では継続的な発生がみられており、海外からウイルスが侵入するリスクは依然として高いものと考えられます。

関係者の皆様方におかれましては、以下の点に改めて御留意下さいますようお願いいたします。

① 飼養衛生管理基準の遵守

ウイルスの侵入時期や場所を事前に特定することは不可能です。「既にウイルスが近くにいるかもしれない」との危機感をもって、日頃の管理徹底を図ってください。立入制限や消毒の励行、鶏舎専用の長ぐつ使用に加え、鶏舎の防鳥ネットの小さな破れ等も漏れなくチェックし、問題箇所を発見したら速やかに対策をとりましょう。

当たり前の事ですが、ウイルスが鶏に触れなければ、HPAIは発生しません。

② 早期通報の徹底

家さんの健康状態を良く観察し、HPAI感染が疑われるような場合には、速やかに家畜保健衛生所または管理獣医師に連絡して下さい。万一、HPAIが発生した際には、まん延防止対策の成否は初動防疫にかかっています。実際に、昨年の本県での発生事例では、飼養者からの速やかな通報により、感染拡大を防ぐことができました。

被害を最小限に食い止めるためには、異状発見時の早期通報が不可欠です。

牛流行熱にご注意ください

沖縄県石垣市で牛流行熱が発生しました。また、鹿児島県からも疑い事例が報告されています。今後、本県での発生の可能性もありますので、疑わしい症状がみられた際は、速やかにかかりつけの獣医師または家畜保健衛生所に御連絡ください。

牛流行熱とは？

牛流行熱ウイルスによる急性伝染病で、牛と水牛の届出伝染病に指定されています。蚊や又カカなどの吸血昆虫が感染を媒介するため、夏～晩秋にかけて発生が集中します。牛から牛へ直接感染することはありません。

症状は？

突然の高熱（41～42℃）が特徴です。発熱は2～3日間続き、食欲の減少、反芻停止、泌乳の減少や停止、激しい呼吸、流涙、多量のよだれと鼻水、脚の腫れと痛みによる歩行困難といった症状が見られます。ほとんどは解熱とともに回復し、致死率は1%未満です。

予防と治療

不活化ワクチンで予防できます。ただし、吸血昆虫の活動が活発となる夏前までに接種を済ませておくことが重要です。外部導入牛についてはワクチン接種歴を確認するとともに、2週間程度は既存の牛からなるべく離れた場所で飼養し、健康状態をよく観察しましょう。発症した場合の治療は対症療法のみとなります。

発生状況と防疫措置（10月9日現在）

沖縄県石垣市の肉用牛繁殖経営農場3戸4頭で上記の様な症状がみられ、病性鑑定により牛流行熱の発生が確定しました。防疫措置としては、当該農場の移動自粛、周辺農場やセリ出荷牛を含む衛生害虫忌避剤の牛体塗布などが緊急的に行われ、10月上場予定牛については全頭へのワクチン接種が予定されています。また、鹿児島県は疑い事例の段階ですが、既に同様の防疫措置がとられています。

なお、本県の定期モニタリングでは、今のところウイルスの動きは認められていません。



起立不能となったウシ



流涙と泡沫性流涎

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
高病原性 鳥インフルエンザ	台湾	8月25日	あひる	H5N8
		8月1日～8月27日	地鶏	H5N2
	韓国	9月14日～9月22日	あひる	H5N8

編集後記 (K.S)

10月1日現在

朝晩だいぶ冷え込みますが、昼間の日差しは10月にしては強すぎでは！？人吉盆地は寒暖の差が激しく、霧の発生頻度は全国で1、2を争うほどだそうです。家畜の管理がとても大変な時期だと思いますが、ヒトの方も体調を崩さないようご用心を。